

- 【写真】 1 明宝レディースの社員の皆さん
 2 ケチャップの原料となるトマトは岐阜県内から仕入れる
 3 第3セクター「めいほうスキー場」は県内有数の規模を誇る
 4 旧明宝村寒水地区にある社屋
 5 商品群の一部。時計回りに『天然山ぶき』（324円）、『赤かぶら』（324円）、『梅干し』（324円）、トマトを使った『トマト3姉妹』（1,697円）

特集

「協働」と「連携」のまちづくり
 岐阜県郡上市明宝地区の地域活性化事業

女性の視点による多彩な
 事業展開を推進する明宝レディース



1



2



岐阜県郡上市の明宝地区にある株式会社明宝レディースは、「中日農業賞」「ちいき経済賞」の受賞、「立ち上がる農山漁村」「農商工連携88選」の選定など、数々の表彰や国の先進事例指定などで知られる事業者。今回は、女性ならではの視点で地域活性化を推進する事例をお届けする。



3

農村主婦による
 「生活改善グループ」が出発点

東海北陸自動車道を郡上八幡ICで降り、国道472号・通称せせらぎ街道を北に約20分走ると、郡上市旧明宝村に至る。ここは美濃地方の北端で奥美濃とも呼ばれる、長良川の支流・吉田川に沿った典型的な中山間地域である。濃尾地方では、旧明宝村の名は、リズムカルな『明宝ハム』のTVコマースから、よく知られているところだ。

またここは、明治30年に奥明方村が成立し、昭和45年、明方村に改称、さらに平成4年に明宝村と改称して、「地域CI（Community Identity）」を進めた自治体としても知られている。

平成16年には周辺の6町村と合併して郡上市となった。その旧明宝村の寒水地区に、株式会社明宝レディースはある。



4

1990年代における旧明宝村の「村おこし」構想を受けて、次々と設立された5つの第3セクターのうちのひとつ。緑豊かな集落の一角に建つ社屋の玄関を入ると、ロビーには数々の賞状や盾、トロフィーが誇らしげに飾られている。「中日農業賞」「ちいき経済賞」の受賞、「立ち上がる農山漁村」「農商工連携88選」



5

■郡上市情報■

【人口】44,728人（明宝地区：1,906人）
 （平成25年4月末現在）
 【面積】1,030.79平方キロメートル
 （明宝地区：154.86平方キロメートル）
 【発電所データ】
 中部電力(株)長良川水力発電所
 【本特集問合せ先】
 株式会社明宝レディース
 ☎0575-87-2388

★トマトケチャップの製造工程

1 採れたて新鮮なトマトを洗浄後、トマトの皮やヘタなどの余分なものを取り除き、ジュース状にして5時間煮込む。この間に調味料などを何回かに分けて入れて味を整え、手作業でかき混ぜ、アクは丁寧に取り除く。



2 約半分の量になるまで煮込む。味は凝縮され、色もトマトの濃い赤色になる。



3 トマトケチャップが規定の糖度を満たしているか検査する。



4 瓶に入れたトマトケチャップを1つずつ丁寧に蓋をしていく。これも手作業で行う。



5 蓋を付けたトマトケチャップはそのまま高温の熱湯で煮沸される。



の選定などによるもの。女性によるコミュニケーションの先進的な事業体として全国的に有名になった。その前身は、昭和36年に結成された「芝生グループ」や昭和50年に結成された「仲良しグループ」、昭和58年の「若草グループ」といった、食生活の改善や生活環境の改善を目指す親睦集団である「生活改善グループ」である。

青空市場でのこんにやくの製造販売や、名古屋市の物産展に『朴葉すし』の出品などをしていたが、転機となったのは、昭和58年のトマトケチャップの試作であった。

旧明宝村では、1970年代後半から稲作や養蚕などからの転作物としてトマトの栽培が盛んに行われてきたが、「生活改善グループ」でもトマト栽培に取り組む。そのトマトの規格外品を何とか有効活用しようとしたのが始まりとなった。

その後、試行錯誤を繰り返してケチャップの製造にたどり着き、平成元年に販売を開始した。この年、村



株式会社明宝レディース 社長 鷺見 美代子 さん

女性だからできる あたたかく優しい加工商品

明宝レディースの現在の事業は、自然産品の農産物加工商品を作る部門と、『道の駅・磨墨の里公園（道の駅・明宝）』に出店する直営の和食処

の補助事業で農産物加工施設を建設したことも追い風になった。しかし、当初は村のイベントなどで細々と販売しており、「生活改善グループ」の副業の域を出るものではなかった。

翌年には村内のスキー場に「ぜんざい」を販売する店舗を季節限定で

『おかみさん』や、『めいほうスキー場』での『ぜんざいや』の飲食部門などに分かれる。従業員は、その名のとおり全員女性で現在11人。

「女性だからこそできる、あたたかみ優しさに加えて、岐阜の自然の恵みをいっぱい受けて育った野菜や果物を皆様にご提供できればと思います。今日まで活動してきました」と、3代目の鷺見美代子社長は語る。鷺見社長は入社17年で、先代の本川榮子社長の後を継ぎ、平成23年に社長に

就任した。

その主力商品は、トマトケチャップ。平成10年ごろから、TVや新聞で取り上げられるようになって、大評判となり、売り上げが増加。今では近畿・東海の有名百貨店でも販売されるようになった。その他の加工品は、赤かぶら漬、天然山ふきのきやらぶき、梅干し、葉とうがらしの南蛮煮など。

このトマトケチャップの最大の特徴は、原料・製造工程へのこだわりだ。

開店している。その翌年には加工施設を拡充し、もちの加工も始めるなど事業の多角化を進めていった。

平成4年、組織を法人化して株式会社明宝レディースが設立された。資本金は1千万円で、そのうち旧明宝村が30%、既に第3セクターとして法人化されていた明宝特産物加工(株)

が50%、残りの20%を生活改善グループの主婦達が出資することになった。その後の経緯は7ページの表「明宝レディースの歩み」を参照していただければわかるように、全国にも類まれな、農村女性による地域活性化の成功事例として知られることとなったのだ。



(左上)『道の駅・磨墨の里公園』にある明宝レディース直営の『おかみさん』
 (右上)『おかみさん』の日替わり弁当 (830円)。寒水名物の『つぎ汁』がつく
 (左中) 旧明宝村で最初に設立された明宝特産物加工株式会社
 (右中) 明宝特産物加工株式会社で作られる『明宝ハム』
 (左下)『道の駅・磨墨の里公園』で売られる『トマトケチャップ』(597円)

一貫して、地元で栽培される夏秋トマトを原料としている。初めは『桃太郎』という品種だけだったが、ここ数年は猛暑が続き、暑さに強い新しい品種も加わってきている。

当初は、地元で生産されたトマトの規格外品の活用ということだったが、生産量の増加に伴い、現在では郡上市のみならず、県北部の飛騨地方にまで調達範囲を広げている。

製造工程にも、こだわりがある。手洗いにしよ洗浄し、ジューズ状にした後、大きな鍋で5時間煮詰める。その間、手作業でかき混ぜながら、あく取りをし、調味料を加えて味を整え、瓶詰めされ、蓋付け、煮沸消

毒、ラベル貼りの工程をたどる。このように、機械を使用するのはジューズ状にするときだけで、まさに『手作りの味』。もちろん、保存料・着色料などは一切使用しない。こうした「手作り・無添加」の製造工程も、明宝レディースのトマトケチャップの評価を高めている。

トマトケチャップをはじめとした加工品は、地域内では『明宝ハム』を製造・販売する明宝特産物加工(株)や、『道の駅・磨墨の里公園』、温浴施設『湯星館』、『めいほうスキー場』など旧明宝村が設立した第3セクターを通じて販売される。中でも『明宝ハム』とセットで販売されている

『明宝高原ギフトセット』はヒット商品のひとつ。地域内の第3セクターと連携しながら販路を拡大してきた。地場において、産業連関を形成

背景にある高い地域住民の『自立意識』

こうした、女性によるコミュニティビジネスの成功の背景にあるのは、旧明宝村の官民にわたる『自立意識』の高さにある。昔から村内の自治会組織が強く、地域社会における協働機能が維持されてきた。

明宝レディースの前身である主婦による「生活改善グループ」の活動も、地域内の家と家との結びつきが強かったためである」と推測できる。

また、それを支える「とうちゃん」や「お姑さん」達の有形・無形の支援があったことは想像に難くない。

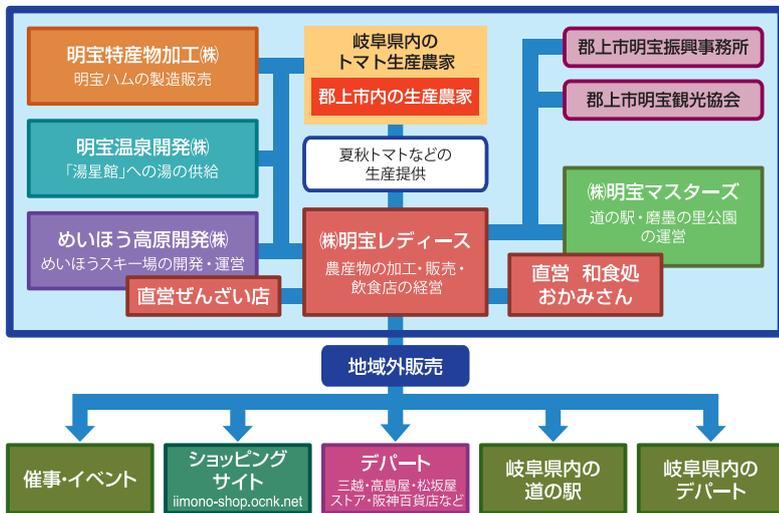
さらに、こうした地域性は、官である旧明宝村の職員たちにも受け継がれていた。

1980年代から、観光開発や特産品開発を積極的に推進して、前述の明宝特産物加工(株)をはじめ

しているのも大きな特徴だ。平成4年当時から、今で言う「6次産業化」を推し進めてきたことは注目に値する。

め、めいほう高原開発(株)、明宝温泉開発(株)、(株)明宝マスターズといった第3セクターによる多様な法人を次々と設立して、村の雇用の場を生み出していった。

明宝レディースの連携先





和田 佐和子 さん

最後に設立された明宝レディースの揺籃期には、当時の村長であった高田三郎さんは、社員とともに肩にトマトケチャップなどの商品を背負い、各地にPRに出かけた。「5つ目は女性だけの会社を」という村長の思いはとても強かったという。

また、役場の当時の担当係長で、後に郡上市の副市長になった鈴木俊幸さんは、女性社員の「とうちゃん」

達へ、事業への理解と協力をお願いして回った。設立当初、女性だけの会社経営に多くの人々が不安視する中、女性の感性を生かす地域活性化活動は次第に認められていった。古くから培われてき

た、この地域の自立性を土台に、地域の地域振興策は、こうして身を結んでいく。

鷺見社長も、小さいころのことを覚えている。

「昔は、ほんとに貧しかったんですが、母親のような世代の女性たちが『生活改善グループ』などの活動に嬉々として飛び回る姿はまぶしく見えました」

また、寒水地区の若いグループ員であった和田佐和子さんも、当時を

振り返る。

「露地栽培から始めましたが、規格外のトマトを、もったいないということでケチャップに加工して販売して売れたときは、苦勞もしたが嬉しかった」

和田さんは、今もトマト栽培を続けており、明宝レディースに出荷している。「生活改善グループ」の時代から明宝レディースの活動に加わってきた者として、鷺見社長の様々な相談にも乗っている。

『明宝』の知名度をさらに高め 次の飛躍を目指す

今後の課題は、原材料となるトマトの不足だ。明宝レディースが仕入れるトマトは、前述したように規格外のものが主流だが、昨今のトマトブームで、そうしたトマトでも買手が付くようになっており、争奪戦が起きている。会社を始めた頃は、規格外のトマトを買ってくれるとありがたがられたが、立場が逆転したという。

そのため、県内の産地に何度も足を運んだり、買い取り単価の引き上げなども行わざるを得なかった。とにかく、今は量を確保することに力を注ぐ。

全体の年間売り上げも、旧明宝村

を訪れる観光客の減少とリンクするように低下してきた。『めいほうスキー場』や『道の駅・磨墨の里公園』での販売額が落ちてきているからだ。

そのための取組みとして、新製品の開発を急いでいる。ケチャップ以外にデザートになるようなお菓子製品を考えている。

また、東京や大阪の百貨店で開催される物産展にもこまめに出席し、販路の拡大に努める。源平合戦の「宇治川の先陣争い」で名高い名馬『磨墨』が旧明宝村の産駒であることにちなみ、馬つながりということで東京・大田区の馬込や、郡上藩の藩主であった青山氏つながりで東京・青

山のイベントでの出張販売なども行う。当然、旧明宝村のPRも忘れない。

『道の駅・磨墨の里公園』にある『おかみさん』では、日替わり弁当に、寒水郷土料理である『つぎ汁』を提供する。郡上南蛮と昆布・干し椎茸・煮干等をじっくり煮出し、豆腐を細かく刻んだものだけを具にした、辛味のあるすまし汁。その昔、汁を「注ぎまわった」ところから『つぎ汁』という名が付けられたとされる。

また、第3金曜日には「明宝トマトケチャップ」をたっぷり使用した、オムライスと鉄板ナポリタンのみの特別メニューの「金曜のおかみさん」を始めた。鷺見社長は言う。「なによりも、



第3金曜日に提供される特別メニュー『金曜のおかみさん』の明宝トマトケチャップの鉄板ナポリタン(850円)



同じく特別メニュー『金曜のおかみさん』の明宝トマトケチャップのオムライス(850円)



明宝温泉『湯星館』の人気の露天風呂。ここも第3セクターで設立された



名馬・磨墨にちなんで命名された『道の駅・磨墨の里公園(道の駅・明宝)』

この地域全体を売ることが重要だと思います。観光も含めて、さらに『明宝』の名を全国にPRして頂くことが、商品の売り上げ増につながると思います」

最近、出張販売などで大都市に出かけると、「知っていますよ」と声をかけられることが増えた。さらに『明宝』の知名度を上げ、さらなる事業の飛躍を目指している。

■明宝レディースの歩み

昭和36年	芝生グループ結成(グループ員11名) 食生活の改善、生活環境の改善および親睦集団として発足
昭和50年	仲良しグループ結成(グループ員7名)
昭和52年	グループ員で夏秋トマト栽培に取り組む
昭和56年	青空市場の開設(村民センター前 毎月第2・4日曜日)。こんにゃくの試作および製造販売
昭和57年	奥美濃物産店に朴葉ずしを1週間出品する(名古屋市) 全国グループ活動実績発表大会に県代表として出場(芝生グループ)
昭和58年	トマトケチャップ試作 若葉グループ結成(グループ員10名)
昭和61年	明宝村農業婦人クラブ結成 郷土食「おからもち」の製造法の統一 岐阜県農業フェスティバルに明宝村農業婦人グループコーナーを設け「おからもち」を販売する
昭和63年	摘果メロンの酒粕漬、飛騨紅かぶ漬の商品化に取り組む
平成元年	農産物加工所建設、54.63㎡(わがむら特産物推進事業) 漬物、ソース類、そうざい、こんにゃくの製造営業許可取得。トマトケチャップの製造、販売開始
平成2年	青空市場を「磨墨の里公園」へ移転(毎週日曜日開催) スイートコーン栽培及び加工、冷蔵貯蔵に取り組む。めいほうスキー場に「農業婦人の店」開店
平成3年	農産物加工所に貯蔵室増設(9.94㎡)。もち加工施設一式導入(ふるさと食品育成事業) 全国グループ活動実績発表大会に県代表として出場(仲良しグループ)
平成4年	株式会社明宝レディース設立(命名梶原県知事) 明宝温泉「湯星館」内に、うどん・そばの店「ゆうゆう」開店
平成6年	加工所改造工事(19.87㎡)、事務所兼休憩所増設(26.5㎡) 仕出し業営業許可取得、弁当・朴葉ずし製造開始
平成7年	全国レディースサミット開催。明宝温泉内「ゆうゆう」開店
平成8年	デイサービスにて昼食担当
平成9年	「中日農業賞」受賞。新工場を同村寒水268-1に移転
平成10年	明宝温泉内「ゆうゆう」リニューアルオープン
平成15年	「第8回ちいき経済賞 ふるさとスピリット賞」受賞 12月、道の駅「磨墨の里公園」内に食事処「おかみさん」をオープン
平成16年	6月、農林水産省「立ち上がる農山漁村」に選定
平成20年	7月、経済産業省と農林水産省の共同プロジェクト「農工商連携88選」に選定
平成22年	明宝温泉湯星館「ゆうゆう」事業譲渡
平成23年	「トマト3姉妹」発売 代表取締役の本川榮子氏が取締役会長に、取締役専務の鷲見美代子氏が代表取締役に就任